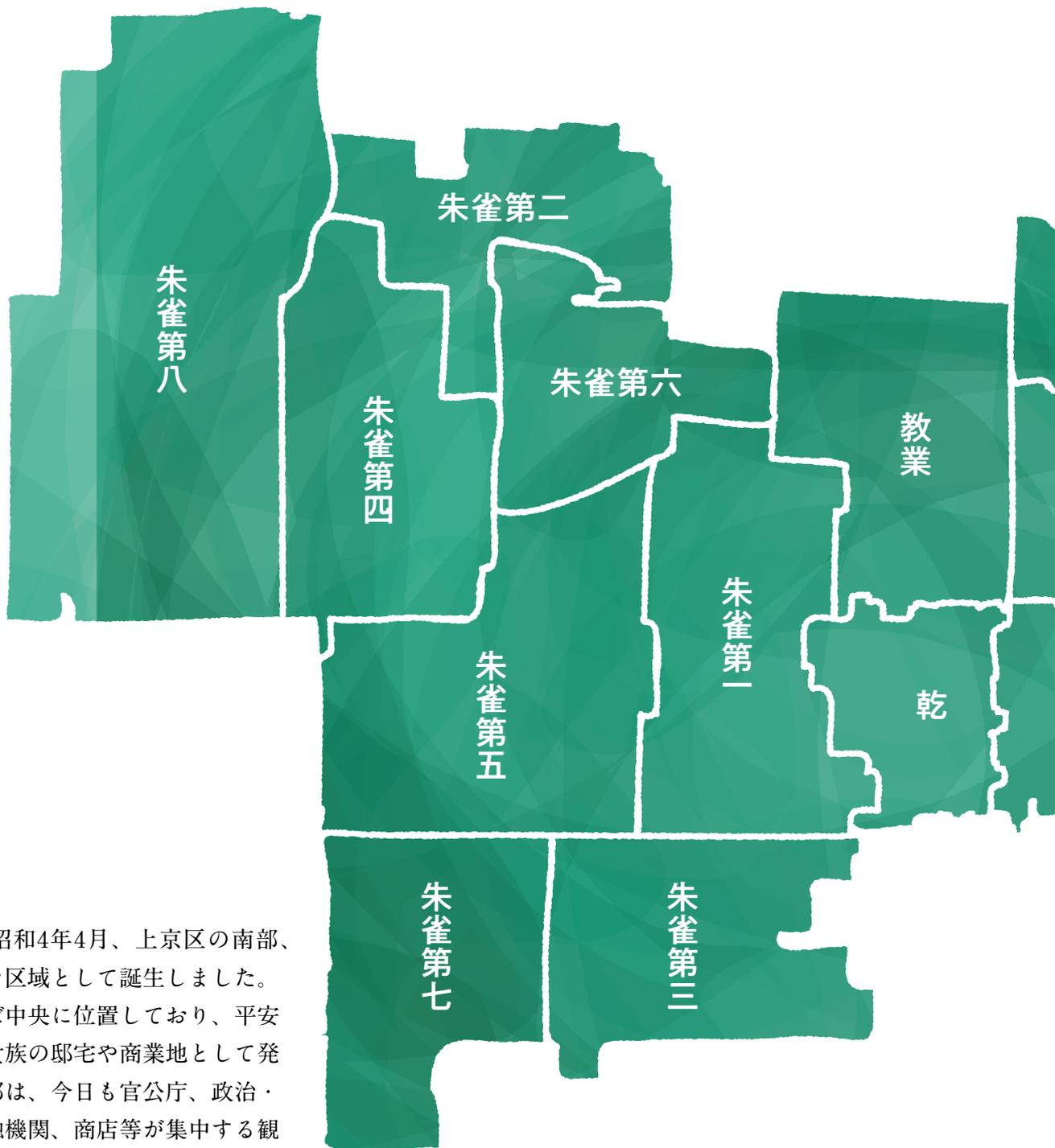


まちの成り立ち



中京区は、昭和4年4月、上京区の南部、下京区の北部を区域として誕生しました。

京都市のほぼ中央に位置しており、平安建都の頃から貴族の邸宅や商業地として発展してきた東部は、今日も官公庁、政治・経済団体、金融機関、商店等が集中する観光、娯楽、ショッピング等でにぎわう京都市の産業・経済活動の中心です。また、古くから碁盤の目状に「町」が形成された東部では、「町」が連携した「町組」の編成や「番組」への再編を経て、15の学区を形成しています。

同じく、平安京のメインストリートである朱雀大路（現在の千本通）の走る西部も平安建都の頃から開発が進み、時代の変遷のなかでその後、市内への重要な農産物の供給地として発展していきました。大

正末期以降は、道路や鉄道等の都市基盤の整備に伴い商工業と住宅が混在する市街地として都市化が進展しています。また、明治以降の朱雀野村や朱雀学区への再編を経て、昭和16年に現在の8つの学区を形成したことで、中京区では、自治活動の基盤となる学区は23となり、現在も長い歴史のなかで育まれてきた自治の精神を受け継ぎながら地域活動を展開しています。

中京を取り巻く状況と特徴

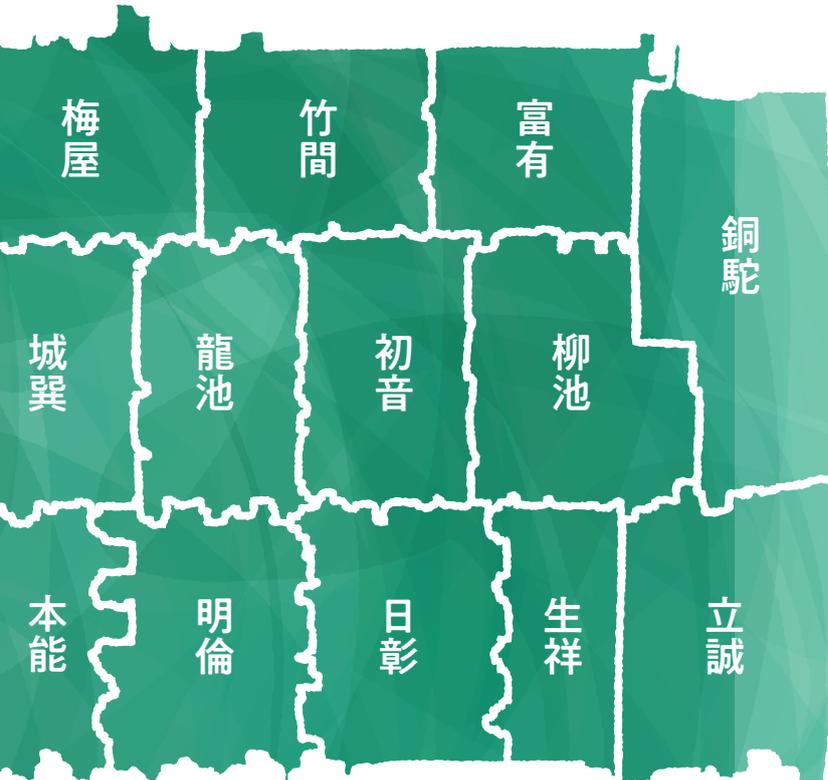
人口の増加が鈍化する一方、長寿化が進み、単独世帯が増えるまち



中京区の人口

約 **10.9** 万人
(平成 27 年)

- 中京区の人口は、都心の利便性や充実した文化教育環境を背景としたマンション建設の増加等を契機に、平成7年から増加し、平成27年の国勢調査では約10.9万人となりました。一方、近年は、インバウンドの影響からホテル需要が伸び、人口の増加は鈍化しています。
- 出生数についても、全市で減少しているなか、中京区は増加傾向にありましたが、近年は鈍化しています。また、ひとりの女性が一生の間に生む子どもの平均数を示す合計特殊出生率は、市全体よりも低い状態が続いており、令和元年も1.02と低迷しています。
- 高齢化率(65歳以上の割合)は、市全体よりも低いものの、上昇を続けており、平成27年時点で24.7%となっています。
- 世帯類型では、単独世帯が増加しており、平成27年時点で全世帯の55.4%(65歳以上の単独世帯は12.7%)を占めています。



23 学区

ワシがナビするぞ!



鍾馗さん

京町家の屋根の上に目をやると、怖い顔でこちらをにらむ瓦製の人形が!
これが町家の小さな守り神「鍾馗(しょうき)さん」です。雨にも負けず、風にも負けず、けなげに京都のまちを守り続けています。
この冊子では案内人(ナビゲーター)として活躍してもらいます。

※詳しいデータは資料編(P39~)を参照

地域コミュニティの つながりが強いまち

「地蔵盆」の実施率

85.1%

(平成25年)



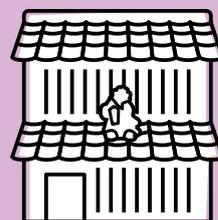
- 近年、京都市でも地域コミュニティにおける住民同士のつながりや地域活動の減少といった課題が生じていますが、中京区の「自治会・町内会加入率」は、平成30年時点で74.3%と市全体の67.7%を約7%上回っています。
- また、京都の伝統行事である「地蔵盆」の実施率(平成25年)は85.1%と、多くの地域で実施されています。地蔵盆をはじめ、地域の祭りや体育祭等の行事は、世代を超えて地域のひとつとをつなぎ、町内の連携や絆を強める機会になっています。

個性のある通り文化と 町並みが残るまち

京町家

9,183軒

(平成20・21年度)



- 通りごとに個性のある文化や町並みが残っている中京区では、「地区計画」(令和2年度時点で10地区)や「地域景観づくり協議会」(令和2年度時点で4団体)といった制度を活用し、個性豊かなまちづくりや町並みの保全が進められています。
- 平成20・21年度に行われた京町家まちづくり調査によると中京区には、9,183軒の京町家が存在していました。同調査では、とくに建物の保存状況が良好な京町家は、市内で最も多い6,861軒あり、区民ひとりひとりの努力が美しい町並み景観の保全につながってきました。しかしながら、社会経済環境の変化や生活スタイルの変化等により、町家の減少は続いており、一層の保全活動が求められています。

教育・子育て環境の 充実するまち

小学校児童数

4,392人

(平成29年度)



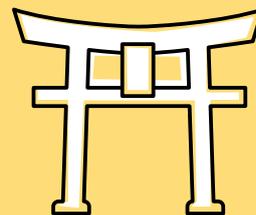
- 近年、市全体の小学校児童数が減少するなか、中京区では増加傾向(平成29年度には4,392人)にありましたが、最近では人口の増加が鈍化することに比例して、児童数も微減傾向にあります。
- 地域ぐるみで教育を進める学校運営協議会制度をいち早く取り入れるなど、教育環境の充実に加え、京都市の子育て支援総合センターである「こどもみらい館」や保育所、児童館、病院、さらには「中京ベビーズサポートマーケット」や各学区で運営されている「きつずぱあく」など、さまざまな主体による充実した子育て支援が展開されています。

多くの文化財を有する 歴史と文化のまち

京都市指定・登録文化財

53件

(令和2年)



- 中京区は、世界遺産である元離宮二条城をはじめ多くの有形、無形の文化財が存在する歴史と文化の息づくまちです。京都市指定・登録文化財(有形文化財のみ)も、市全体の15.0%にあたる53件(令和2年4月現在)が中京区にあります。
- また、多くの地域では、区民や事業者等の手によって神事である祇園祭をはじめ、奉祝行事として始まった時代祭や京都の伝統行事である地蔵盆等の祭りや行事が活発に行われています。

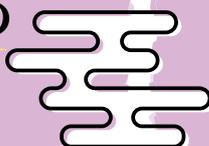
多くの企業や商店、 官公庁の集積する 京都の経済を牽引するまち

事業所数
9,871 事業所
(平成28年)



- 中京区は、御池通、烏丸通、河原町通、四条通沿いに多くの企業や商店、官公庁が集積する、ビジネス活動の中心地です。平成28年経済センサス活動調査によると、中京区の事業所数は市内で最も多い9,871事業所で、京都の経済全体を牽引しています。

和装産業をはじめとする 伝統・文化と時代の 先端が交わるまち



- 中京区は、「卸売業、小売業」や「宿泊業、飲食サービス業」の割合が高いまちです。市内有数の繁華街や世界遺産「元離宮二条城」をはじめとする国際的観光地を有し、世界各地からさまざまなひとが集い、交流するにぎわいのまちです。また古くから、伝統産業である和装産業の中心地でもあります。
- さらに近年は、大学等の知の集積、交通の利便性、脈々と根付く京都の進取の気風等が注目され、IoT*1やAI、情報通信といった分野の最先端で新たな市場を開拓するスタートアップ*2の集積も進んでいます。国内外の大学や研究機関、支援機関等との連携により、世界に羽ばたくスタートアップの創出・育成が進んでいます。

数字を見れば、よくわかるぞ
中京区はすごいまちじゃ!



*1 IoT [Internet of Things] の略であり、あらゆるモノがインターネットにつながり、相互に通信し合う技術
*2 「スタートアップ」新しいビジネスモデルで急成長をめざす新興企業

歩いて楽しい 環境に配慮したまち

自動車交通量
約4割減少
(平成18年~平成27年)



- 中京区は概ね平坦な地形で、徒歩や自転車での移動も容易なコンパクトにまとまったまちです。鉄道網やバス路線等の公共交通機関も充実していることから、過度にクルマに頼らない生活ができる、歩いて楽しめるまちです。
- 四条通と周辺幹線道路の自動車交通量は、四条通の歩道拡幅等に伴い、平成18年から27年にかけて約4割減少しており、環境負荷を抑えるまちづくりが進んでいます。
- また、各人が家の周りを掃く「かど掃き」の習慣や地域ぐるみで展開されている清掃活動をはじめ、各家庭の樹木や草花はもとより沿道の植樹帯に至るまで、まちの緑が区民の手で守られている環境意識の高いまちです。

昼間の人口が 夜間に比べて約1.5倍、 にぎわいと華やぎのまち

昼夜間人口比率
144.6%
(平成27年)



- 多くの事業者等を抱える中京区は、通勤・通学による流入のため、昼間は夜間の1.5倍程度まで人口が膨らみ、昼夜間人口比率(平成27年)は、144.6%となっています。
- また、通勤・通学以外でも、観光や買物、ビジネス等の目的で多くのひとが訪れる中京区の実際の昼間人口はさらに多くなっており、にぎわいと華やぎのまちとしての顔を有しています。